

卓話集

平成 20 年 4 月 16 日
卓話者 塚原 進

現代建築の巨匠「ル・コルビュジエ」



- * 現代建築の巨匠「ル・コルビュジエ」は、20 世紀の建築に多大な影響を与えた建築家の 1 人です。それは現代美術における画家「パブロ・ピカソ」のような、20 世紀を代表する巨人的存在と言えます。
- * その活動は幅広く、建築・絵画・彫刻・家具デザイン・都市計画など多岐にわたり、つねに新しい芸術、新しい建築に挑戦しつづけた冒険家でもあります。
- * 文章によって自らの哲学を表現する事も大切だと考えていた彼は、作品だけでなく著作をとおして世界中の建築家に影響を与えてきました。
- * コルビュジエの合理的な建築デザインを追求するファンクショナリズムの思想は、それまでの暗くて重苦しい時代から明るくて開放的な 20 世紀という「新しい時代」を切り拓いたと言ってもよいでしょう。
- * 彼は、スイスのフランス国境に近いラ・ショー・ド・フォンに生まれ、時計職人の父の職業を継ぐため地元の美術学校に入りました。その後イタリア・ギリシャ・トルコなどのエーゲ海を中心にした「東方への旅」で建築に目覚め 30 歳でパリに出ますが、当時のボザールを中心とするアカデミズムには受け入れられませんでした。そのことに対する反骨精神がコルビュジエ活躍の大きなエネルギーの原点になっています。
- * 母国スイスでは、彼の偉業を称えた肖像が 10 スイスフランのお札になっています。
- * 昨年、生誕 120 周年 (1887 年 10 月 6 日～1965 年 8 月 27 日) を記念して、世界中で「ル・コルビュジエ展」が開催されました。(日本では東京・六本木ヒルズの森美術館に於いて 5 月～9 月に開催。)
- * 今期、世界中のル・コルビュジエの傑作 20 件以上を一気に世界遺産に登録しようという動きがあります。(東京の国立西洋美術館も条件が整えば登録される可能性がある。)

私がル・コルビュジェの作品を視察したスライドを中心に説明致します。

<本日のスライド作品>

1. 1959年 国立西洋美術館（東京）（実施設計：前川・坂倉・吉坂が担当）
2. 1929年 サヴォア邸（パリ）
3. 1933年 ヌンジュセールのアパート（自邸）（パリ）
4. 1952年 マルセイユのユニテ（マルセイユ）
5. 1955年 ロンシャンの礼拝堂（ベルフォール）
6. 1960年 ラ・トゥーレット修道院（リヨン）
7. 1952～1959年 チャンディーガール都市計画（インド）

<ル・コルビュジェ語録・その他>

1. 「ファンクショナリズム」（機能主義）
2. 「近代建築5原則」・・・ピロティ・水平に連続する窓・
自由な平面・自由なファサード・屋上庭園。
3. 「simple is best」
4. 「住宅は住むための器械である」
5. 「モデュロール」
6. 「ドミノシステム」
7. 「シトロアン住宅」
8. 「輝く都市」
9. 「東方への旅」
10. 「エスプリ・ヌーブオー」
11. 「輝く都市」